

第2回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 3階中会議室

H28.2.25 18:30~20:30

1 開会

司会：健康増進課健康推進担当係長

2 議事

① 高知市口腔保健支援センターの取組みについて

事務局より説明

② 今後の方向性について フッ化物洗口の取組みについて

事務局より説明

【宮川会長】

フッ化物洗口については、県下は、市と比べるとパーセント的には進んでいる。高知市はまだまだ少ないが、この検討会の中でも何度も話が出てきているが、少しずつ動きは出ており進んできている。高知市は大きな学校などもあり、難しいところもある。

校医の先生にも働きかけをしている。来年度の方向性として2点あったが、地域の中で継続した取組みが行えるように各小中学校区単位で取り組んでいくためにはということでご意見を聞きたい。

【中山委員】

保幼小連携がこれからどんどん進んでおり増えていっている。うちの校区は、小学校でフッ化物洗口を実施しているのので、小学校が実施しているならば、取り組んでいこうということで進んでいる。

うちの園ではまだ、職員向けの講習などは行っていないが、園長会でもらった資料を活用し説明をしている。来年度は講習も行い、進めていきたいと思っている。

保幼小連携の中に入っている保育園で始まったので、あとの民間2園も取り組んでいくことになると思う。他の地域も、小学校で実施していたら、必然的に保育園でも取り組んでいくことになるのではないかと思う。

【伊藤委員】

校長会の中で、口腔保健検討会で話した内容については、私の方から説明をしており、必要性や、高知市内の取組みが低いことについては一定理解していると思う。理解はしているが、取り組むことになるためには、学校、保護者等の中で十分な理解が必要で、口の中に入るものなので、慎重になっているという印象はある。自分の小学校の中でも話をしたが、目先のことに追われ、なかなかすぐには取り組めない状況で、少しずつ進

めていくのが現状だと感じている。各中学校区の保幼小中が連携して取り組んでいくのが、保護者に理解を得やすく、一学校だけがというより足並みを一定そろえてやったほうが進めやすいと思う。ただ、これから中学校給食が始まるためそちらに意識が傾いているという現状ではある。

【竹島委員】

保幼小連携はいいと思うが、高知市内は、保育園は、仕事の都合で預けていることが多いので、必ずその校区の小学校に入学するわけではないのが現状ではないか。

校区内の園がやっていたら小学校に働きかけるということだが、全員がその小学校に行くわけではないということも踏まえて検討していくことも必要ではないか。

大きい小学校とか小さい小学校とかある前に、事務局の報告からもあったように、一部の子から始めるということもありではないかと思う。

フッ化物洗口もそうだが、歯科検診の結果を参考にというのは、検診後、むし歯がある子が治療をしていないことが多く、予防もそうだが、むし歯がある子についても検討する必要があると思う。

【宮川会長】

保育幼稚園課や、教育環境支援課の働きかけでフッ化物洗口の取組みがいろいろと広まってきていると思うが、現場の声ということで動きがあれば報告してほしい。

【教育環境支援課】

先ほど伊藤委員の方からも話があったが、前回の検討会の翌週の校長会で伊藤委員のほうから、校長会でフッ化物洗口について説明をしてもらい、一定校長先生方に、関心をもっていただいたと感じている。併せて健康増進課へ連絡することについても周知したことにより、問い合わせ等もありいい傾向ではないかと思っている。

一足飛びに進んでいくものとは考えていないので、それぞれの委員さんからも意見が出ているように、中学校区の連携や、実際取り組んでいるところの取組み内容についても他の学校に伝えていくことで、フッ化物洗口の効果についても教職員や保護者等にも知ってもらう機会になるので、できれば来年度はそういった取組みを行っていきたいと考えている。それには、中学校区にある小学校の実践というのがより身近に伝わるものではないかと思う。

併せて、市としての助成についても、資料等があれば、そういった情報を早めに教育委員会から学校のほうに発信するようにし、取り組むきっかけになればと考えている。先ほど委員さんのほうからもご意見があったが、一部の学年から始めるというのも一つの方法かと思うので、そういった情報も伝えていながら来年度の足がかりにしていきたいと思っている。

【宮川会長】

現在は一部の学年から実施したりということはあるのか？

【事務局】

昨年度始まった学校では、最初は特別支援学級から始めたいというご相談からだった。校長先生と養護教諭と、開始に当たっての打ち合わせをした時に、特別支援学級で取り組むことはとてもいいことだが、低学年、特に1年生から実施すると、とても効果が高いことをお伝えした。そして、1年生だけでも実施してみないかと投げかけたところ、それだったら1年生から3年生でやってみようということになった。

特別支援学級が開始した2、3ヵ月後に、1年生から3年生が始まり、その翌年、全学年で実施することになった。今ご相談いただいている小学校についても、全学年一斉に開始するのが大変ならば、まずは1年生から、翌年は1年生と2年生といったように1学年ずつ増やして行くといった方法があることを伝えている。

【保育幼稚園課】

平成27年度については、保育園の取組みが進んできた。保幼小連携で、小学校の取組みが、保育園のほうに広まってきている。

保育園の場合は、年中・年長で取組み、そこから小学校へとつながっていくため、非常に連携しやすく普及しやすいと思っている。

就学前は、基本的な生活習慣の定着というところが大事になってくる。支援が必要なご家庭もあるため、そういったところから、生活リズムについても重点的に取り組んでいく必要があると考えている。

【宮川会長】

次にもう一つの方向性ということで、むし歯の多い地域での働きかけというところでご意見をお聞きしたい。

【田岡委員】

現在、市の歯科医師会のほうで、むし歯とかフッ化物洗口に対する取組みは、学校保健部で対応している。学校歯科医や園の協力歯科医に、広報誌で啓発を行っている。また健診の前には、健診でのチェック事項や注意点の確認を行っている。

フッ化物洗口実施の希望がある学校歯科医や園の協力歯科医には、担当部長のほうから直接連絡を入れ、後押しをしている。

今後は、学校保健委員会等でも学校歯科医よりフッ化物洗口も含めた説明や普及啓発していったらいいのではないかと検討している。

【山村委員】

中学校では、年に1回各部署、薬剤師、歯科医、耳鼻科医、内科医が集まり検討の会をすることになっている。その中で学校側からの問題点やこちら側からの問題点について話し合っている。小学校や保育園ではそういった会はやっていない。

小学校で就学時健診をした時に、保護者の方に15分ぐらい病気等のことについてお話をさせてもらう機会があるので、そういった入学時に啓発の機会をもてればいいのではないかと思う。

【上原委員】

親子と一緒に何かするという機会があれば、子どものことだったら親も動くのではないか。子どもが親を動かす仕掛け作りをしていったらいいのでは？と思う。

【宮川会長】

確かに大人目線から話していたので、子どもからのきっかけづくりはいい取り組みだと思う。子育てクーポン等もすごくよかったが、健康増進課のほうで、子どもからアプローチをする機会はあるのか？

【事務局】

子どもさんが飲む姿を見たら…ということでの波及効果はあると思う。保育園等でのフッ化物洗口では、保育士さん達は、最初は少し不安を感じていたとしても、子ども達が楽しそうに取り組み、お口の力もついていき、だんだんと上手になっていくとうことで園で取り組んでよかったという実感を持ってもらえている。ただ保護者の方を動かしているかという点、まだまだなところはあると思う。

【宮川会長】

以前の会で、今の子どもさんはぶくぶくうがい上手にできないという話が大野委員のほうからも出ていたが、最近の高知学園短期大学の実習等での啓発の取り組みについてはどんな様子か聞かせてほしい。

【大野委員】

本学において、毎年高知市内の16園の保育園・幼稚園に指導に行っているが、4歳ではぶくぶくうがいを1回2回しかできない子どもがいる。5歳になるとだいぶできるようになる。またお便りの中では、フッ化物洗口ではないが、フッ素入りの歯磨剤の使用については保護者へもお知らせをしている。最近は園の方からフッ化物洗口について質問があるので、その時には高知市のほうに相談するように説明をしているため、今後増えてくるのではないかと思っている。

県のほうの取り組みになるとは思うが、保育園や幼稚園等の免許の更新の際に、園の先生方にも生活習慣の位置づけということで、歯科のことについても啓発する機会があれば、園での理解が増えるのではないかと考えている。

【宮川会長】

フッ化物洗口についてはいろいろ意見が出たが、むし歯の多いところへの働きかけや、むし歯の多い少ないは、多少は地域差があるのか？

【教育環境支援課】

地域差というか、学校単位で歯科検診の結果が上がってくるので、集計しているなかで、この学校はむし歯の罹患率や本数が多い、歯肉炎が多い等の傾向はある。ただ限定されたものではなく、この校区の小学校が多かったら中学校も影響を受けているなという傾向を見て取れることはある。

【宮川会長】

先ほどもフッ化物洗口ももちろんだが、むし歯になっている子の治療も大事ということでご意見をいただいた。治療の方は、歯科医のほうでしっかり行って行きたい。

フッ化物洗口については、少しずつ広がりが出てきている。この会も3回目になるが、ご意見いただきながらいろいろ取組みもしながら進んできていると思う。

何かその他で意見や質問はないか？

【保育幼稚園課】

保育幼稚園課では、高知市内の全教育・保育施設に配布している保健だよりで、フッ化物洗口について連載をしてきた。その反響として、保護者の方からの質問でフッ化物洗口をやってみたいが、薬剤はどこで買えるのか？という質問がある。

【宮川会長】

フッ化物洗口剤は、歯科医院では、薬事法の関係で、販売ではなく診察をして治療の一環での処方という形になる。

【竹島委員】

薬局で、この秋から、第一類のお薬として薬剤師がいる店か薬局で買うことができるフッ化物洗口剤が出た。一般の薬局で買えるようになった。

薬局で相談してもらおうと早いと思う。

②今後の方向性について

生活習慣病予防と連携した歯周病予防の取組み（医歯薬連携）について
事務局より説明

高知市歯科医師会委託事業：医歯薬連携事業の取組み状況について

【田岡委員】

医歯薬連携事業は、歯周病と生活習慣病が深い関わりがあることを広く市民に周知し、健診受診と歯科受診について、連携して相互に紹介するしくみをつくるために、医師会、薬剤師会、歯科医師会を通じてそれぞれの立場における生活習慣病と歯周病についての認識や連携の現状を把握するというを目的に、まずアンケートを実施した。

歯周病が全身に及ぼす影響というのが、市民の方々の認知度というのは低いのだが、今回、医療従事者にアンケートを行ったが、医療従事者も意外と認知度が低いという結果だった。医科は特定健診を実施している病院、歯科・薬科は各診療所や薬局でアンケートを取ったが、歯周病と糖尿病などの代謝疾患との影響については、周知度は高かったが、肺疾患や妊娠との影響についての周知度は低かった。それを受け、まずは歯周病と全身疾患の関係について、広く周知をしていこうということで、今回ポスターを作成した。各診療所や病院、薬局に掲示するだけでなく、各団体の方々にもご協力いただきたい。

【山村委員】

歯周病と全身疾患については、医師の中でも十分に周知されていない部分はあるが、最近テレビ等で歯周病と全身疾患の関係について取り上げられている。マスメディアは力があるので、知らないうちに情報が耳から目から入っていくので、啓発の意味ではとても効果的だと思う。診療の場では、その方の病気中心の説明になってしまい、なかなかそういった部分までの周知は難しいため、マスメディア等を活用し、知らないうちにインプットされるよう広く周知していくことが重要だと思う。

【竹島委員】

アンケートの回答率は、薬剤師会は多かったが、歯周病と全身疾患の周知度については十分ではなかった。処方箋を持ってこられた患者さんの歯周病と疾患の関係だけでなく、歯ブラシや歯磨き剤、入れ歯洗浄剤を買いに来られた患者さんに対しても説明をしていくように、薬剤師会の会員には話をしている。

【宮川会長】

歯周病治療をしていくなかで、糖尿病があつたらやはり予後がよくない。歯科から医科への照会もなかなか十分に取組んでいない状況で、医科・薬科から歯科へつなげて

もらうだけでなく、歯科からも医科・薬科へもつなげていけるように、歯科が苦手な部分を医科・薬科の先生方に助けをいただきたいという思いで、医歯薬連携事業に取り組んでいる。このポスターは学校や、事業所等で掲示もお願いできたらと思っている。お口の健康チェック等も事業所健診等での使用は可能か？

【上原委員】

協会けんぽ事業所健診は委託なので難しいが、保健指導で保健師が各事業所を回っているので、その時にポスターを配ることができる。

お口の健康チェックも保健指導と自覚症状があり、点数で見ることができるのでいいと思う。使わせてもらえるなら使いたい。いいツールだと思う。

【宮川会長】

ポスターを、学校や保育園等に掲示していただくのは可能か？

【伊藤委員】

小学校は、児童向けには漢字が難しいので、中学校や高校でなら内容の理解も可能ではないか？

小学生は啓発効果が高いので、啓発するならば、小学生用のツールが必要だとは思う。小学生は、保護者への啓発にもつながっていく。

養護教諭等の研修会で歯周病予防の内容を取り入れると、養護教諭が理解し、保健だより等で伝えていくことにつながっていくと思う。

【中山委員】

保育園では、お迎えの時に掲示板等を保護者や祖父母が見るので、見てもらえると思う。

【宮川会長】

いろいろな場で広く普及啓発をしていけたらと思っている。フッ化物についても予防という観点で広めていけたらと思う。

【上原委員】

むし歯菌も歯周病菌も親から子へ移るということで、親が気をつけないと子どもの将来にも影響するといったことを啓発する機会があってもいいのではないか？

【宮川会長】

1歳6か月・3歳児健診等で保護者向けの指導はあるか？

【事務局】

現在は保護者向けの指導は行っていない

【竹島委員】

この前の日曜日に、歯科医師会のフォーラムに参加をしていて、今年の10月に県下で妊婦健診に歯科健診を入れるという話を聞いた。産科にかかると健診だけでなく母親教室もあり、両親一緒に参加もするため、その中で歯周病予防のことや、むし歯の治療も妊娠中期を過ぎると可能ということのをそういう機会に啓発することが効果的だという話だった。生まれてくる前からの取組みが大切だと思った。

【母子保健課】

妊婦歯科健診については高知市も高知県に協力し、取り組んでいく。効果があれば事業化されていくと捉えている。

妊娠期の歯周病予防については、高知市が平成27年度から地域の子育て支援センターで、パパママ教室を開始した。その中で妊婦さんとパートナーに向けて、口の健康の大切さについて伝える機会を作っている。来年度以降も取り組んでいく。

【上原委員】

赤ちゃん会の時に、禁煙サポーターさんが禁煙相談に取り組んでおり、効果的な取組みになっていると聞いている。歯科のほうも赤ちゃん会等で歯周病相談等に取り組んでいるか？

【田岡委員】

市の歯科医師会のほうでは歯と口の健康週間行事として、「歯っぴいスマイルフェア」をイオンモール高知のイオンホールで実施している。いろいろな団体にご協力いただき、むし歯だけでなく歯周病の啓発や糖尿病、禁煙相談や骨密度測定等を行っている。

【事務局】

赤ちゃん会では、保護者への啓発ということで以前はRDテスト（むし歯菌の検査）を親にも行っていた。現在は実施しているかどうかはわからないが以前は動機付けを行っていた。

【宮川会長】

周知等もなかなか難しいが、もっと取り組んでいきたいと思っている。
その他ご意見や質問はないか？

【事務局】

今日配布しているお口の健康チェックは、事業所でも使っていただけるとのことだが、その他薬局等でも活用していただいけそうか？

【竹島委員】

早速コピーして活用したいと思っている。

【事務局】

また内容等でも何かあれば健康増進課までお願いしたい。

【宮川会長】

継続していくことが大事だと思うので、このことについても一足飛びには進まないの
で、みなさんのお力添えをいただきながら今後も進めて行きたいと思う。

閉 会

事務局より連絡事項

委員の任期は3月31日まで